

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

アニサキスアレルギー患者における魚介類の除去が脂質・糖代謝に与える影響に関する調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2001年1月1日から2018年5月31日までに当院を受診し、アニサキスアレルギーと診断された成人患者のうち魚介類の摂取を制限（除去）している患者（推定30～40人程度）

2. 研究目的・方法

【背景・目的】魚介類に寄生した線虫の一種、アニサキスによる胃アニサキス症やアレルギーは報告される症例数が年々増加している。しかし、アニサキスアレルギーの積極的な治療法ではなく、アニサキスに汚染されている可能性が高い魚介類の完全除去を一定期間保つことが現在試されている唯一の治療（再発予防）法である。一方で、魚介類の食習慣は脳血管障害や冠動脈疾患の予防に有益とする報告があり、アニサキスアレルギー患者における魚介類の摂取制限も脂質・糖質代謝異常やカルシウム不足を招く可能性が想定される。そのため、当科では食事制限を指導しているアニサキスアレルギー患者で、上記のような病態が続発しないか厳重に経過観察を行っている。成人食物アレルギー患者で魚介類の制限が栄養や生活習慣病にどのくらい影響を与えるのか調べた研究は希少であり、当科ではそれに関する後方視的調査を行う。

【方法】対象は2001年1月1日から2018年5月31日までに昭和大学病院を受診し、アニサキスアレルギーと診断され、治療・経過観察の目的で魚介類の完全除去もしくは部分除去により食事が制限されている患者のうち、後方視的に解析可能なデータが保存されている患者。患者の診療録（2018年1月からは電子カルテ）、問診票、紹介患者の場合には診療情報提供書などに記載された診療情報のうち患者背景（対象患者の食習慣、生活・職業環境、既往歴、アレルギー発症時の状況）を後方視的に収集・調査・解析する。加えて、治療・経過観察のために施行した食事制限前後の身体情報（身長、体重、BMI）、血液データについても調査・解析を行う。

本研究は学術研究であり、2001年1月1日から2018年5月31日まで当院外来を受診した患者データを利用する。「9. 診療録等の調査項目」に記載した情報を取得する。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有する。

研究期間 医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後・昭和大学病院病院長による研究実施許可後～ 2019年 7月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録情報、電子カルテ内の情報、紹介状（診療情報提供書）、身体情報（身長、体重、BMI）、血液検査データ

4. お問い合わせ先

昭和大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科 鈴木 慎太郎（内線 8532・PHS3109）

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：医学部 呼吸器・アレルギー内科 氏名：鈴木慎太郎（すずきしんたろう）

住所：〒142-8666 品川区旗の台1-5-8 電話番号：03-3784-8532

研究責任者：昭和大学医学部内科学講座

呼吸器・アレルギー内科 講師 鈴木 慎太郎